



地域医療
支援病院

災害拠点
病院

地域がん
診療連携
拠点病院

患者サポートセンター広報誌

九州労災病院

九労 Kyuro Hello! ハロー

迎春

2024

理念

地域住民と勤労者の皆様に、良質で安全な医療を提供します。

基本方針

- 患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の医療を提供します。
- 地域医療機関との連携を重視し、中核病院として高度専門医療を担います。
- 働く人々の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
- 患者さんに寄り添う心と、高い技能を兼ね備えた医療人を育成します。
- 経営基盤が安定し、働き甲斐のある病院づくりを目指します。

2024. January vol.97



謹んで新春のお慶びを
申し上げます



皆様、新年あけましておめでとうございます。

新型コロナもようやく落ち着きを見せ、院内でも散発的に患者は発生するものの、ほとんどが軽症で大きなクラスタになることなく比較的短期間で鎮静化します。むしろ今はインフルエンザの方が脅威かもしれません。病院経営もようやく暗いトンネルを脱し、コロナ禍前を超える水準まで回復しつつあります。当院の強みである整形外科を中心に、がん診療、救急医療にも注力し、一層の立て直しを図っていきたいと考えています。

2023年8月末には病院機能評価 3rdG:Ver.3.0 を受審し、手術材料のリユースの件を除いて大変高い評価を受け、無事終了しました。手術材料のリユース問題は、SDGsの観点、材料の安定供給、医療費抑制、そして病院経営面からも早急に解決すべき課題です。材料の強度、感染面での安全性が強調されてはいますが、そもそも単回使用はメーカー側の利益を優先した経営戦略に端を発しています。リユース促進のための再製造単回使用医療機器制度は存在しますが、現時点ではその適用は極めて限定的です。今後、本制度の適用拡大やオリジナルメーカー以外の参入促進が期待されるところです。

当院の使命のひとつに勤労者医療の充実があり、その一環として治療就労両立支援にも積極的に取り組んでいます。令和元年度から全疾患が対象となっていますが、令和4年度の支援実績は72件（脳卒中12件、がん3件、整形疾患他57件）と毎年着実に増加しています。是非、本制度をご活用いただければ幸甚です。

また、9月に医療連携懇談会、10月に京都医師会との合同症例検討会を4年ぶりに開催しました。日頃ご紹介を頂いている地域の先生方と直接顔を合わせ、お話しする機会を得ることができまして、大変貴重な時間でした。今後も緊密な連携を維持しながら、地域医療に積極的に貢献したいとの意を改めて強くしました。引き続き皆様からの暖かいご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



九州労災病院院長
三浦 裕正



1. 脳神経センターとは？

九州労災病院では、脳神経外科、脳血管内科、脳神経内科が中心となり「勤労者脳神経センター」として包括的な医療を行っています。脳神経外科（3名）は動脈瘤クリッピング術、バイパス術などの外科手術を、脳血管内科（4名）は脳梗塞に代表される内科投薬加療を行い、疾患が脳炎、多発性硬化症など神経難病であった場合は神経内科（2名）医師が担当しています。昨今急速に発達しているカテーテル治療（脳梗塞に対する機械的血

栓回収術、動脈瘤コイル塞栓術など）に関しては、脳神経外科と脳血管内科にそれぞれ専門医が在籍しており内科外科共同で治療を行っています。また神経疾患は急性期からリハビリテーションを行う必要がありリハビリテーション科医師（3名）が発症早期から治療に携わっています。

画像診断においては放射線科、小児疾患の場合は小児科など多科にわたる先生方の支援、協力でセンターが運営されています。

2. 多職種カンファレンス

平日朝のカンファレンスで医師だけでなく看護師など含めた多職種の立場から議論し自分の科の患者さんだけでなくセンター全体の

患者さんの治療方針や手術適応を決定しています。脳梗塞の原因となる内頸動脈狭窄症を例にとると 1. 投薬治療（脳血管内科） 2. 内

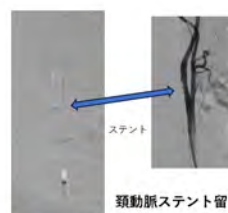
ICS の治療写真



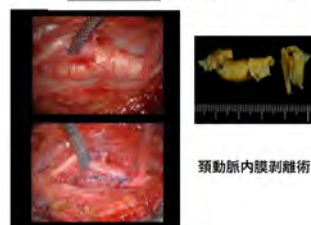
内頸動脈狭窄症



多職種カンファレンスで協議！



ステント
頸動脈ステント留置



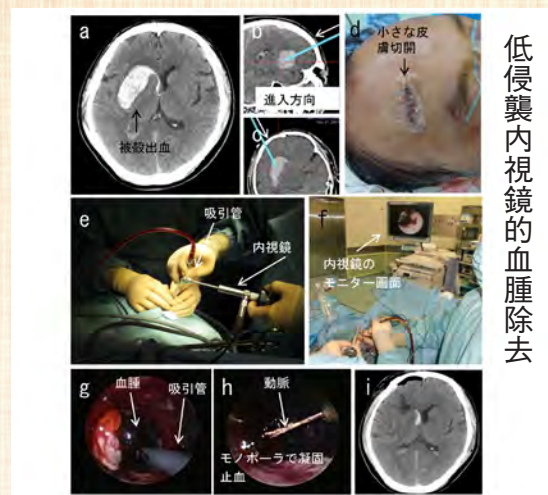
頸動脈内膜剥離術

頸動脈内膜剥離術（脳神経外科）3. 頸動脈ステント留置術（カテーテル治療）の大きく3つの方針がありますが、担当医師が自分だけで治療方針をきめず、それぞれの専門医が話し合いの上、最適な治療方針を決定してい

ます。外科治療決定の際も内科の先生の意見を取り入れるのが最大の特徴であり毎日顔をあわせ病棟も同じだからこそできる当センターの強みになっています。

3. 適切な治療方針と安全確実な治療を目指します

内科医、開頭手術および脳血管内治療（カテーテル治療）それぞれの専門医が相談のうえで最適な治療方針を決定しています。負担のかかる外科治療を行う際は術中の脳波、運動誘発電位、感覚誘発電位などの電気生理学的モニターを検査部の協力で行い、麻痺などの合併症を極力避けるようにしています。また患者さんの高齢化が進んでいるため可能であれば、カテーテル治療や脳出血に対する神経内視鏡手術などの低侵襲治療を行うようにしています。



低侵襲内視鏡的血腫除去

4. 脳卒中チームとは？

脳卒中は早くて確かな診断を行い治療につなげることが何より大切です。

救急専門医、脳神経外科医、脳血管内科医、脳血管内（カテーテル）治療医からなるチームで当直もしくは24時間オンコール体制をとり素早く対応できるシステムをとっています。特に脳血管が詰まって脳梗塞を起こしても発症早期にカテーテルで血栓を回収する（機械的血栓回収術）と劇的に症状が改善するため積極的に治療を行っています。早期治療のためには患者さんに早期受診していただかないといけないため、救急隊との連携だけでなく、脳卒中教室などで一般の方に対する脳卒中の啓蒙活動も行っています。

脳卒中治療は病院内だけで完結するものではありません。早期受診だけでなく、発症後



脇坂（脳血管内科） 田中（脳外科） 原田（脳外科）

のリハビリテーション、脳梗塞再発予防、またそのための生活習慣病コントロールも大切です。コロナ禍で滞っていましたが、一般の方に対する脳卒中教室のみならず、開業の先生方々との連携や勉強会なども再開し力を入れていきます。

追伸

2024年から脳血管撮影装置が最新の機器に更新されます。

入れ替え工事期間中（2024 / 3月下旬から5月GW明け）は連携の先生方にご

迷惑おかけいたしますが、更新後はより良い安全なカテーテル検査、治療が行うことができるようになります。何卒よろしくお願い致します。

九労地域医療勉強会のお知らせ

在宅でみる

真皮を超える褥瘡のケア



日時 令和6年2月15日(木) 19:00～

講師 皮膚・排泄ケア 認定看護師 下畑 由美

場所 九州労災病院3階講堂 & WEB (Zoom) 開催

※ お問い合わせは地域連携部門まで



独立行政法人 労働者健康安全機構

九州労災病院

〒800-0296 北九州市小倉南区曽根北町1-1

TEL 093-471-1121 (代表)

ホームページ

<https://www.kyushuh.johas.go.jp>



患者サポートセンター

患者サポートセンターSTAFF

センター長 副院長 中島 信能

入退院支援部門 師長 薮田 万喜

社会福祉部門 MSW 坂出 友美/豊嶋 奈保子

地域連携部門 事務 加藤 大成/二見 誠司/桑 恭平/
今林 みゆき/藤田 敦子/宮本 弘子

お問い合わせ先

入退院支援部門 代表電話 093-471-1121

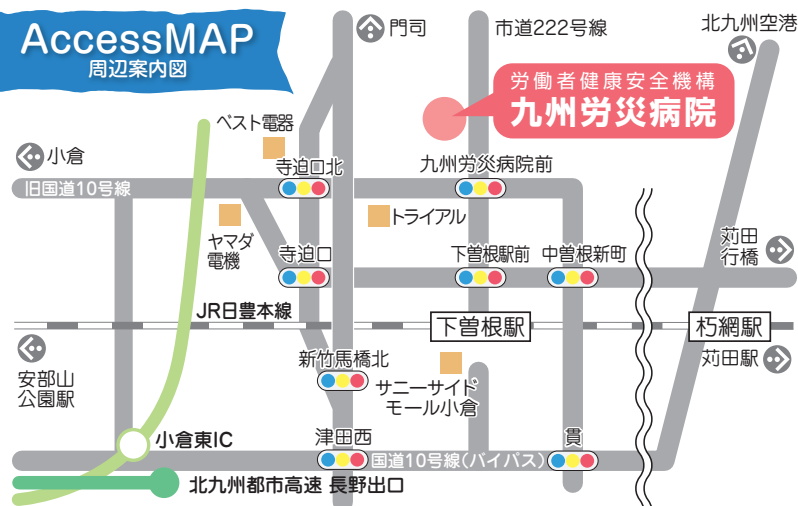
社会福祉部門 直通電話 093-475-9686

地域連携部門 FAX 093-473-5903

共通 E-mail renkei.renk-k@kyushuh.johas.go.jp

AccessMAP

周辺案内図



診療案内

受付時間 午前8時15分～午前11時

救急受付 急患は24時間随時受け付けます

診療時間 午前8時45分～午後5時15分

休診日 土曜日・日曜日・祝日
年末年始(12月29日～1月3日)

初診時 7,700円
選定療養費 診療情報提供書のご持参を
お願いしております